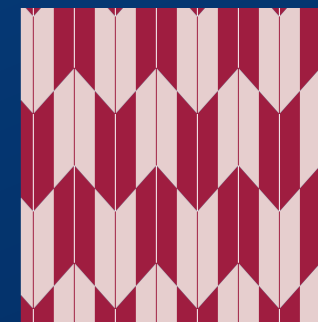




弓道の矢

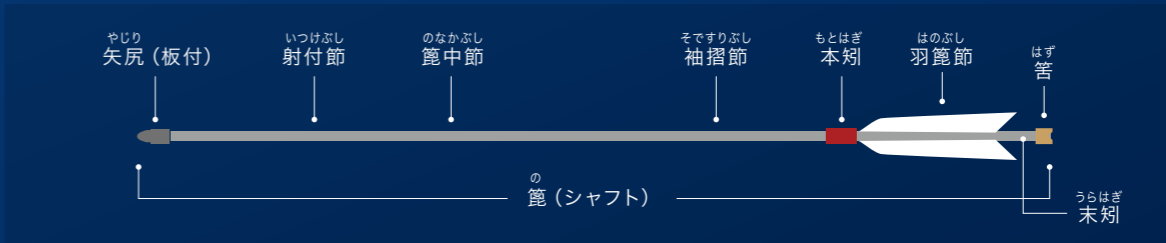


やぶさめ
武士の鍛錬の一つとして知られる流鏑馬。疾走する馬に乗りながら、的を射抜く。



女学生の袴姿でも知られる「矢羽根模様」。的を射る、ということから縁起物や魔除けの意味がある。

■各部の名称



古来の竹矢に代わり、最近ではアルミ矢が普及している。自分の矢とわかるように、シャフトはアルマイト処理で黒、茶、灰、銀、赤、青、藤、紫などに着色される。太さと厚さは4桁の数字で表され、例えば「2015」では、「20」は64分の20インチ(約8mm)、「15」は1000分の15インチ(約0.38mm)のこと。



いまでも人気を誇る弓道の魅力

弓矢は、洋の東西を問わず人類が古くから使いこなしてきた武器でした。日本では、平安時代末期に武士が台頭すると弓矢は重要な武器となり、武士たちは弓矢の技術習得に励むようになりました。

明治以降、武道としての弓道が行われるようになり、現在では精神修養や競技スポーツとして、

また伝統ある日本文化の理解を深めるため、多くの人が弓道に親しんでいます。現在日本の競技人口は約14万人(全日本弓道連盟、2021年調べ)です。この約半数は高校生であり、高校の武道系の部活動として、人気の高い種目の一つです。

最近では、弓道を題材としたアニメも人気を呼び、凛としたたたずまい、美しい装束など、いろいろな要素が他の競技にはない大きな魅力だといえるでしょう。

相性の良いシャフトを手に入れる

矢は、シャフトの先端に金属製の矢尻がつけられ、後ろに羽根がついています。羽根は、1本に3枚付いており、ワシやタカなどの羽根が使われます。

シャフトは、太さ、重量、スパイン(硬さ)などが異なるさまざまな種類があり、競技者は自分に合った矢を選びます。元々、矢のシャフトは竹で作られていますが、主流はアルミ矢であり、ジュラルミン

などのアルミ合金が使われています。太さや重量が均一であり、初級者から上級者まで人気があります。アルミニウム以外の素材では、カーボン矢があり、カーボンの表面に竹の皮をコーティングしたシャフトなども開発されています。

それでは、射られた矢はどのくらいの速さで飛ぶのでしょうか。ある調査では、近的(28m)競技での平均速度は時速160~200kmであり、これは自動車を超えるほどの高速ということ。まさに「光陰矢の如し」です。

取材協力:(株)小山弓具
参考資料:「はじめよう弓道」ベースボールマガジン社、2021年11月